

令和3年度 第1回

長野市社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会議録

日 時	令和3年5月28日（金） 午後2時～午後3時30分
会 場	長野市ふれあい福祉センター 4階 会議室2・3
出席者	委員/若林委員、山岸委員、岩下委員、宮島委員、寺田委員、風間委員、中山委員、高野委員、児玉委員、小山委員、山田委員、青木委員、丸田委員 （所属、役職は別紙委員名簿のとおり） 事務局/中澤保健福祉部長、石坂高齢者活躍支援課長、峯村介護保険課長、長岩地域包括ケア推進課長 ほか 傍聴者2名

(議事録)

事務局： 長岩課長	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ<ul style="list-style-type: none">・分科会会長あいさつ・保健福祉部長あいさつ3 委員委嘱4 会長及び副会長選出 立候補、推薦がなく、事務局から提案 副会長 宮島 孝夫委員5 会議事項 (1) 在宅福祉介護料のあり方について 資料1に基づき、事務局より説明
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>小山委員</p>	<p>在宅福祉介護料についての考え方が設立当初に比べて変わってきているということがよく分かった。その中で受給者は1219人。要介護3から5の大変な（状況にある）方たちを家で見ていながら、サービスの方はほとんど使われていない方もいるということだが、その理由を教えてください。</p>
<p>宮澤地域包 括ケア推進 課長補佐</p>	<p>介護サービスの利用申請がないようである。家族で頑張って介護をしている。ただ、全員に対してアンケート調査等を行っているわけではないので、それが全てということではない。</p>
<p>小山委員</p>	<p>かなり大変な（状況で介護をしている）方たちというのは分かるが、やはり国の方針や創設した当初の観点を重視すれば、（金額を）絞った形での支給を考えればいいのではないかと、というのが私個人の意見である。</p>
<p>山岸会長</p>	<p>健気に頑張っているというのは分かるが、なぜ頑張っているのかということが知りたい点。今後あり方を考えるときにその点を掘り下げながら、なぜ利用しないのか・できないのか、という点を踏まえて検討をさせてもらいたい。</p>
<p>高野委員</p>	<p>私は特別養護老人ホームとデイサービスセンターの所長をしているが、本当に家族だけが頑張っているのかどうかというところは、もう一度よく調べた方がいい。私のいる施設はデイサービスとショートステイを行っているが、この方はもう少し利用した方がいいのではないかと、というような方でも、なかなかご家族の賛成をいただけないという場合もある。また、虐待やネグレクトの心配もある。それは私のいる施設だけのことではない。そういった問題がこの24人の中に含まれているかどうかは分からないが、ただ家族が頑張っているというだけで終わりではなく、大変なのが分かっているとしてどうして利用しないのかは、ケアマネージャーや地域の民生委員にも話を聞いた方がいいのではないかと感じた。</p>
<p>長岩課長</p>	<p>今ご意見をいただいたとおり、理由についてももう少し深く調べていくようにしていく。</p>
<p>児玉委員</p>	<p>私は主人を在宅で6年介護している。3年くらい前に（主人が）要介護3になったところで在宅福祉介護料を受給した。（主人は）以前より動け</p>

<p>長岩課長</p>	<p>なくなってきており、在宅での介護も少し楽になったが、要介護1・2の時の方が、徘徊して歩いたり、(現在と比べて)ずっと大変だった。その時には支給を受けることができず、(大変だった。)家にいるようになり、デイサービス、デイケアは週4回通い、ショートは月2回利用している。要介護1・2の時は私もまだ若かったのでなんとかやってくる事ができたが、70歳を過ぎてくると私の体力も落ちてくる。やはり男性は、痩せてはきているけれども、動けなくなってくると介護をするのはきつい。もちろん特養も申し込んであるが、入れない。老健などの(料金が)高い施設(を利用すること)も考えるが、そこへ入れてしまったら私の生活ができなくなる。そういうジレンマで、一番お金のかからない特養へ(入れる)、と思うと、順番待ちで何人も待っている、まだまだ(時間がかかる)。</p> <p>なので、大変になってきても自宅で頑張っているという状況。在宅福祉介護料をいただけるのはとてもありがたく、1年に1度もらった時は温泉に行くことなども考えるが、もう少しいただけるとありがたい。私個人の意見だが、前回は、段々と福祉の施設ができてきたので在宅福祉介護料は廃止になる方向でという話があり、私としては是非それはやめたいと(意見を述べた)。頑張っている人はたくさんいる。(老人ホーム等に)入れたいのはやまやまだがお金の問題など色々な事象で入れない、という方は多い。今回、3月に施設の方で感染者が発生してしまった。(私は)1年間頑張って主人に(ウイルスを)うつさないように買い物も自粛してやってきたが、施設の方から主人が濃厚接触者であるということで(連絡があり)、2週間家で面倒を見た。もうそれが本当に限界で、心が折れてしまい、私の方がストレスで(つらく)、2週間の自宅待機でやっとなのに、何もサービスを出せない・受けられない。ただひたすら主人と2人で自粛していた。それがとてもつらかった。やっぱり色々な施設を利用しないと大変だと思った。買い物も自粛し、友達に連絡して(生活必需品を)自宅に届けてもらうこともあり、そういう方たちの支援があつてなんとか2週間を乗り越えた。もし私が濃厚接触者になったら、主人(の面倒)を見るとなるとどうなるのかとても不安で、心が破裂しそうだった。そういう家族もいることを分かってほしい。</p> <p>国が示している基準では、要介護3以上が対象となっているが、ただし書があり、「地域の実情や家族の状況を踏まえ、要介護2の者でかつ認定調査時の主治医意見書において日常生活自立度2以上のもの」(も含める)と規定されているので、一概に要介護3以上(だけが対象)という訳ではない。</p>
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

山岸会長	<p>状況も様々なので、それを念頭に置いて、（制度を）やめるか否かの検討をしてもらいたい。</p>
長岩課長	<p>(2) 令和3年度介護報酬改定に伴う基準緩和サービス単価の改正等について</p> <p>資料2に基づき、事務局より説明</p>
山岸会長	<p>形式を条例から見直すという説明があったが、具体的にはどういうことを想定しているのか。</p>
長岩課長	<p>今年度も3月中旬に国の動きがあると思われるが、どう直せば国に対応できるか、法規を担当している庶務課と話し合っている。具体的にお話しできる段階にはなっていないが、皆さんの意見をいただきながら検討していく。</p>
石坂課長	<p>(3) その他</p> <p>長野市の高齢者福祉・介護保険サービスの実施状況について</p> <p>資料3に基づき、事務局から説明</p>
小山委員	<p>令和元年度以前と令和2年度で数字が大きく変わっているというのがよく分かる。その中でも気になるのが、8ページ目の「フレイルの予防のための栄養・歯科相談会」というのを実施しているようだが、この数値が長野市の人口と比べて非常に少ない。これの実施方法と課題について教えていただきたい。</p>
湯本地域包括ケア推進課長補佐	<p>「フレイルの予防のための栄養・歯科相談会」については、広報・ホームページ等に案内を掲載している。そこから電話で予約をいただき、相談会を行う。今回は、コロナ禍において、感染予防などの関係もあり、一部相談会を中止せざるを得ず、利用者もしばらく外に出れない状況が続いていた。これから感染対策のことも踏まえてあり方を検討していく。</p> <p>資料では相談会の回数が載っているが、昨年度、スーパーマーケット等でも相談会を開催しようという案があった。コロナの関係でそれができなくなってしまった。アンケートの実施なども考えており、ワクチン</p>

<p>小山委員</p>	<p>接種の後（市民が）どういった生活を送るのか等の回答結果も踏まえて、検討していきたい。他にも企画段階の案があるので、皆さんの生活様式に合わせた形で実施していきたい。</p> <p>フレイル予防というのを大前提にして行われているかと思うが、この数字をどのように捉えるか非常に苦しく思っている。もっと他に違ったやり方はないか。例えばフレイル予防と言ったときに考えられる栄養相談で言うと、9ページと10ページにあるふれあい会食の回数が確かに減っているが、その代わりに配食サービスが増えた。このような形で市民にきちんとした栄養を届けるという方法も一つの考え方だと思うが、相談会を実施し、市民が参加して、こういったものを（食事として）作るといい、という話を聞いても、果たしてその人は家に帰ってから本当にそれを作るのだろうか、という疑問がある。何が本当の効果的な相談、栄養指導、栄養状態を良くすることにつながる手段なのか、と考えると、これは少し弱い施策なのではないかと思った。歯科相談の方もそうだが、なぜ歯科医に行ってピックアップできないのか。又はケアマネージャーと勉強していく中で手を入れないといけない人たちは見えてきている訳なので、例えばそこで歯科医院さんと連携してもっと違う有効的な方法で展開できるのではないかと、とも思った。</p>
<p>長岩課長</p>	<p>現在コロナ禍ということで、「コロナに負けないフレイル予防」ということで啓発を中心にやっている。今年の2月に出た全国版のすごろくの長野市版を作り、栄養であったり運動であったり、そういったことをやってもらいながら（すごろくを）進める、というような啓発を家でやっていただくことを進めている。（すごろくは）SOSネットを通じて配布してもらっている。セブンイレブンやデリシアなどでも店頭にも（すごろくを）置いて配布してもらえるようにしている。コロナ禍で（市民の暮らしに）入り込んでいけないというところもあるが、状況を見ながら小山委員からご指摘いただいたように見直しができるように進める。</p>
<p>山岸会長</p>	<p>7ページに健康づくり事業のスポーツ教室があるが、こういう取り組みと合わせて会場に相談窓口を設けるような方法でも皆さんに知らせることができるのではないかと思った。</p> <p>様々なメニューがあるので、一つに限るのではなくて、複数を組み合わせる必要があるのではないかと。</p>

<p>高野委員</p>	<p>10ページの配食サービスについて。私は現在の施設にいる前は戸隠の施設におり、（資料にある）実施地区2つには戸隠も入っていると思うが、一人暮らしも多いのもう少し（配食を）増やしてくれと、という意見があった。施設で作るといのはなかなか難しかったので、期待に応えられなかった時もあった。栄養のことも（小山委員から）話があったが、一人暮らしとか高齢の方が長野市で増えてきている中、栄養をしっかり摂るといのはなかなか難しい。だからこそデイサービスに来ているというのはあるが、こういうところももう少し民間と連携して、希望者に上手く配送できる・作れるというようなやり方を検討してもらえると、(利用者に)とても喜ばれる事業になると思う。いい事業なので、(利用を増やす)工夫をしたらどうかと思う。</p>
<p>湯本地域包括ケア推進課長補佐</p>	<p>あんしんいきいきプランにも書いたが、民間の事業者さんと連携できるように検討しているので、今後も実現を目指す。</p> <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の老人福祉専門分科会の開催について ・あんしんいきいきプランの送付について <p>7 閉会</p>